

平成 19 年（2007 年）の九州地方及び 山口県の火山活動

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

各火山の 2007 年の活動状況

九重山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

阿蘇山

湯だまりの表面温度は 60℃以下と低く、湯だまりの量や湯だまりの色に変化はありませんでした。また、二酸化硫黄の放出量は一日あたり 600 トン未満とやや少なく、火山活動は静穏に経過しました。

なお、南阿蘇村吉岡の噴気活動も特段の変化はありませんでした。

雲仙岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

霧島山（御鉢）

2 月に振幅のやや大きな火山性微動を観測しましたが、その他のデータに変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

霧島山（新燃岳）

火山性地震は、2 月、8 月及び 12 月にやや多く発生しましたが、その他のデータに変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

桜島

南岳山頂火口では、爆発的噴火や噴火が時々発生し、昭和火口でも 5 月 16 日から 6 月 21 日にかけて噴火が時々発生しました。火山性地震や火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態で経過しました。

薩摩硫黄島

噴煙活動はやや活発で、地震回数もやや多い状態で経過しました。

口永良部島

火山性地震や火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続き、新岳火口付近では熱的活動の高まりが引き続き見られました。

諏訪之瀬島

爆発的噴火や小規模な噴火が時々発生するなど、従来から続いている噴火活動が継続しました。

上記以外の活火山については、火山活動に特段の変化はありませんでした。

この資料は気象庁 HP(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台 HP(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) に掲載しています。平成 20 年 1 月分の管内月間火山概況及び火山活動解説資料は 2 月 7 日に公表予定です。

この資料は気象庁のほか、大分県、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」、「数値地図 10mメッシュ(火山標高)」(承認番号:平 17 総使、第 503 号)を使用しています。また、「数値地図 2 万 5 千(地図画像)」を複製しています(承認番号:平 17 総複、第 650 号)。